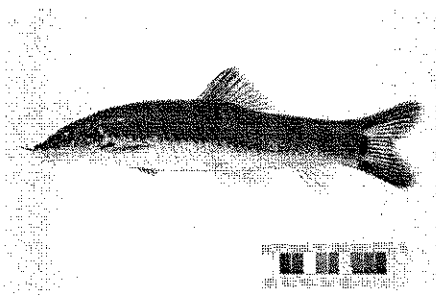


## 1. アユモドキについて

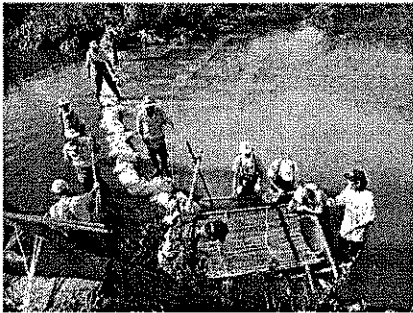


アユモドキは、国の天然記念物と種の保存法の国内希少野生動植物種に指定された日本固有種のドジョウの仲間で、寿命は3年程度です。近年では、絶滅が危惧されるようになり、淀川水系の亀岡市と岡山県の一部の河川でしか見られなくなりました。（先日、南丹市で1個体の生息が確認され、DNA鑑定依頼中です。旧八木町の個体はびわ湖博物館で飼育、保存されています。）その主な原因は、生息環境の変化や密漁、外来魚の侵入であるとされています。

## 2. 生態と繁殖場所

亀岡市のアユモドキは、桂川本流及び支流に生息しております。6月初旬、桂川支流のラバーダムが立ち上がって水位が上昇すると、沈んだ河川敷（一時的水域）で産卵します。卵からかえった稚魚は、川の上流や農業水路にすむ場所をひろげ、10月下旬には、桂川の本流に下って冬を越すと考えられています。

## 3. 外来魚による影響（平成20年）



平成20年6月頃からアユモドキの生息地にオオクチバスの稚魚が大量に侵入したため、地元自治会、NPO、行政等が一体となって駆除を実施いたしましたが、オオクチバスに捕食され、アユモドキやその他の在来魚種が激減いたしました。

### <アユモドキ生息数調査>

2007年9月 約800匹 → 2008年9月 約220匹

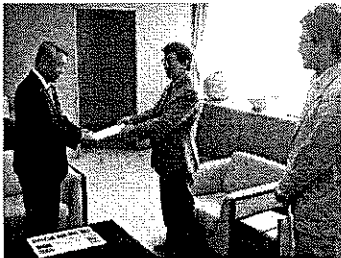
（京都大学大学院岩田准教授調査結果）

環境省による外来魚侵入調査によりオオクチバス稚魚の流入箇所が、主に上流ため池と判明したため、土地改良区の協力を得て池干しを実施しました。桂川支流では保津町自治会がやな漁による駆除を実施され、環境政策課でも延べ32回の駆除を実施し、すべて合わせて約5千匹を駆除しました。

## 4. 亀岡市のアユモドキを保全するための提言（平成21年3月）

外来魚の捕食の影響を受け、個体数が激減したアユモドキの保護増殖に必要な対策を検討するため、平成20年度に学識経験者による「亀岡市アユモドキ生息環境保全回復研究会」が設置され、提言書が亀岡市長に提出されました。

生息河川や周辺のため池などでの継続的な外来魚駆除を確実に実施するとともに、産卵などのための生息環境の改善を行い、中長期的には生息域を新たな河川に拡大していくことが提案されました。



（学識経験者）

京都学園大学バイオ環境学部

石田紀郎教授（座長）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

岩田明久准教授（副座長）

京都学園大学バイオ環境学部

大西信弘准教授

京都大学防災研究所流域災害研究センター

竹林洋史准教授

京都大学防災研究所水資源環境研究センター

竹門康弘准教授

## 5. 亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会発足（平成21年4月）について

平成21年4月23日亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会が発足し、アユモドキの保全回復を図るとともに生息域拡大に向け、各種団体が協力し取り組んでいます。



構成団体は、保津町自治会、土地改良区（上桂川用水土地改良区連合、川東土地改良区、亀岡土地改良区）、農事組合法人ほづ、保津川漁業協同組合、保津川遊船企業組合、有識者（西口市議会議員、京都大学大学院岩田准教授、京都学園大学大西准教授）、亀岡人と自然のネットワーク、丹波淡水魚研究会、京都府、京都府亀岡警察署、亀岡市、亀岡市教育委員会です。

環境省の生物多様性保全推進支援事業の事業採択を受けて活動しています。

亀岡市アユモドキ生息環境保全回復事業（平成22年度）

総額655万円（負担内訳 国355万円 亀岡市250万円 協議会50万円）

（※平成21年度～23年度までの3ヵ年事業です。）

### （平成21年度協議会主な活動）



①ラバーダム立ち上げ時、中干し及び落水時、周辺水路に取り残されたアユモドキの救出

②外来魚駆除（桂川支流及び中山池）

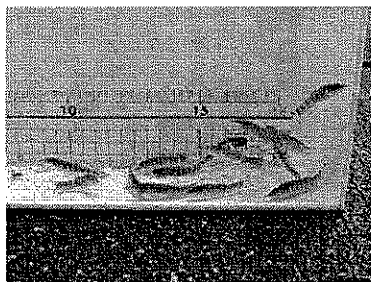
・「ストップ ブラックバス 守ろうアユモドキ」外来魚駆除大会  
（中山池にて2回開催。延べ90名参加 駆除数690匹）

・桂川支流等での定期的駆除（14回、駆除数35匹）

### ③ 保全回復研究調査事業

- ・岡山市先進地視察にて地元自治会、保全団体、岡山県、岡山市と保全活動について情報交換を行う。
- ・湧水、水質、生物調査（京都学園大学大西准教授に受託研究）
- ・遺伝子調査（京都大学理学部渡辺准教授に受託研究）

## 6. 平成21年アユモドキ亀岡個体群について



- ・平成21年6月6日 ラバーダム立ち上げ
- ・平成21年6月下旬 桂川支流で多数の稚魚を確認
- ・中干し時に水路にとり残されたアユモドキ稚魚救出
- ・7月16日～18日 計198匹
- ・9月落水時には、広範囲の水路でアユモドキ救出。計138匹

アユモドキ生息数調査（京都大学岩田准教授の調査結果）

推定個体数 2008年9月 約220匹 → 2009年9月 約2,340匹

岩田准教授からは、「2003年から調査開始以来の大繁殖であった。今年生まれの稚魚が親魚になり、産卵するまで3年を要する。そのため、繁殖するまで多くの個体を生残させる必要がある。今後、外来魚対策を前提に、産卵場所、稚魚や成魚の生息場所及び越冬場所の保全と拡大が必要である」と講評されています。

## 7. 平成22年度の状況について

平成22年9月の生息調査では139匹が確認され、内34匹が当歳魚で本年も産卵したことが確認されました。

また、平成22年度に駆除した外来魚は、オオクチバス（ブラックバス）114匹、ブルーギル496匹です。